

様式C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 21年 6月 5日現在

研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2005～2008
課題番号：17330198
研究課題名（和文） 高等学校福祉科教育の改善・充実および高度化に資する教師教育の体系化に関する研究
研究課題名（英文） Research on systematizing teacher education for improvement and advancement of education of social welfare courses at high schools
研究代表者 田村 真広 (TAMURA MASAHIRO)
日本社会事業大学・社会福祉学部・准教授
研究者番号：90271725

研究成果の概要：

高等学校の専門教科「福祉」の教育改善と教師教育に関する総合的研究である。KOMI理論を活用して介護福祉の基礎から実習教育を一貫させる教材開発、高等学校福祉科の卒業生の就労状況や福祉教育への意識を調査したライフコース研究、EUでの後期中等教育段階におけるケアワーカー養成・教員養成システムを調査した研究、特色ある高校づくりの要に教科「福祉」を位置づけた教育課程改革の実態調査。これらの研究成果をもとに、教科「福祉」の教員教育のあり方について問題提起した。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2005年度	5,600,000	0	5,600,000
2006年度	6,000,000	0	6,000,000
2007年度	1,900,000	570,000	2,470,000
2008年度	1,900,000	570,000	2,470,000
年度			
総計	15,400,000	1,140,000	16,540,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：教科「福祉」、教師教育、教育課程、高校改革、国際比較、ライフコース

1. 研究開始当初の背景

高等学校に学科としての福祉科が設置されて約20年が経過した。2003年の学習指導要領改訂における教科「福祉」の設置により、高校福祉科は急速な広がりを見せ、全国で200校を数えるまでになった。

同時に高校福祉科に関する研究ニーズが切実さを帯びてきた。教科「福祉」設置を手がかりとする特色ある高校づくりは進んできたものの、改革を方向づける理念・教育課程の編成原理への探究は不十分であり、教材開発・教育方法研究は散発的に行われ

ていたにすぎなかった。高校福祉科に促成配置された現職教員の研修ニーズが高まっており、完成年度を迎えた大学における教員養成の課題とそれらを一体のものとしてとらえる必要が生じた。すなわち、教員養成・採用・研修を体系的にとらえる教師教育研究が切望されていた。

2. 研究の目的

本研究の目的を次の2点に置いた。

(1) 高等学校福祉科の多様化の現状と課題を把握し、福祉科教育の改善・高度化に向け

た複数の研究プロジェクトを進行させる。
(2)福祉科教員養成課程の充実を図るとともに、大学院レベルでの福祉科教員研修を連合型大学院において実施するための段取りを整える。

3. 研究の方法

4つのプロジェクト・グループを編成し、各グループリーダーのもとでプロジェクトのテーマ・方法の詳細を決定し、進行した。研究代表者はすべてのプロジェクトに関与した。連携研究者は複数のプロジェクトに参加することも可とした。4つのプロジェクト・グループは以下の通りである。

(1)高等学校福祉科卒業生に関するライフコース・アンケート調査の分析・考察と提言

高校福祉科卒業生に対するライフコース・プレ調査の結果を、全国福祉高等学校長会と日本福祉教育・ボランティア学習学会において口頭報告した。これらをもとに、高校福祉科卒業生を対象にしたライフコース・アンケート調査票を作成し調査を実施した。高校福祉科への進学動機、高校での学習と生活、卒業後の就労や個人の出来事から、ライフステージごとの課題を探索することを目的として、平成5・9・13年度卒業生を層化し、伝統校である17校から202票を集約した。

(2)高大連携による福祉科教員養成課程充実のための実践研究ツールの提示と普及

福祉科教育実習指導研修会を天童と静岡と横浜を会場にして、教育実習生の指導と現職教員研修を兼ねる企画を高大連携によって実施した。その過程で、キャリア教育、KOMIチャートシステムの活用をテーマにした高大連携モデル事業が立ち上がった。いずれも他校の高校教員や大学教員が日頃の課題を持ち寄るとともに学び合う参加型実践研究である。

(3)多様化する福祉系キャリア高校における教育課程改革状況の分析・考察と公表

福祉系大学との連携を含んだ高校福祉科における福祉教育実践を事例調査法により検討し、日本福祉教育・ボランティア学習学会で口頭発表した。旭川・天童・金沢・岐阜・大阪・佐賀で進行しつつある高等学校の教育課程改革に着目し、資格取得を主眼とせず、福祉系キャリア教育の充実を期し、教科「福祉」の特長と独自性を生かしている改革事例を検討した。

(4)高校福祉教育および教師教育に関する比較調査研究の分析・考察と公表

デンマーク・スウェーデン・フィンランド・ドイツ・オランダ・イギリスの比較調査を実施した。高等学校レベルの社会福祉教育の実態、学校体系や教育課程行政のしくみ、教員養成・教員資格要件、ソーシャルケアワーク系資格の認定要件、教育と福祉制度の現状と課題、卒業生の就業実態等について実地視察を行った。インタビュー記録や画像データに加えて、教科書、学校案内、教育課程・試験要領、統計資料等を収集した。

(5)これらの研究成果を集約して、教科「福祉」専修免許取得に関わる大学院の連合型設置へ向けたカリキュラム試案を提案した。

4. 研究の成果

(1)高等学校福祉科卒業生に関するライフコース・アンケート調査の分析・考察と提言

アンケート調査の結果を卒業年次コーホート分析にかけて考察した。

科研報告書『高校福祉科卒業生から見た高校生活と就労；ライフコース・アンケート調査結果のコーホート分析』(2008年6月)

アンケート調査結果を就業タイプ別に分析し、研究の理論枠組み、高校教員を交えた座談会、提言を加えた学術図書を刊行した。提言は以下の7点である。1.幅広い教養と福祉マインドを着実に身に付ける高校教育課程を編成すること。2.高校での日常生活の意義を再認識し、達成感・充実感を味わう機会を創造すること。3.進学志望を満たす教育内容を充実させる。4.堅実な離・転職を想定し、志望する職種・職場へとつなぐ。5.福祉分野で働き続ける人々の実態を見極め、待遇・環境を改善する。6.高校福祉科卒業生の経験を活かした卒後ケアを開発・発展させる。7.持ち味を活かして連帯し、国民的財産としての高校福祉科を支援する。本書は書評・Web等で取り上げられた。

田村真広・保正友子編著『高校福祉科卒業生のライフコース；持続する福祉マインドとキャリア発達』(ミネルヴァ書房、2008年10月)

日本福祉学会岡山大会にて研究成果を口頭発表し、高校福祉科についての初の体系的な調査研究を知らしめた(2008年10月)。

日本福祉教育・ボランティア学習学会年報 Vol.13 特集に学術論文4本を収録した。

ライフコース研究グループは継続し、現在は追加調査に向けた準備を進めている。

(2)高大連携による福祉科教員養成課程充実のための実践研究ツールの提示と普及

日本社会事業大学と白鷺女子高等学校及び静岡女子高等学校との連携協力事業とし

て、報告書『福祉教育活用ノート；KOMI理論で育つ高校生』（2007年11月）をまとめ、高校及び大学教員に普及した。目次は以下の通りである。

監修の言葉／ミニガイド；『KOMI理論で育つ高校生』の読み方・使い方／KOMI記録システム活用実践 - 介護概論・生活指導・進路指導編 - ；介護概論／家族のコミ記録／自分の生活／進路計画／KOMI記録システム活用実践 - 介護概論・社会福祉演習編 - ；自己ケア過程の展開・2年生／自己のケア過程の展開・3年生／利用者の残存機能を生かすためには、どんなときに介護が必要なのか／あとがき／資料編／ワークシート／KOMI記録システム

本報告書は、介護の基礎理論への理解と介護福祉実習での技術習得とを結ぶ教材として、あるいは生徒の自己覚知を促すキャリア教育の教材として、各高校からの注文と問い合わせがあるため、市販図書としての刊行を準備している。

仙台大学を拠点として、介護予防、介護福祉実習・演習、学科づくりをテーマとした教育実習および教員研修を実施した。現在、山形県立山辺高等学校と仙台大学との間でカリキュラム改善を目的とした高大連携プロジェクトを進行している。

(3)多様化する福祉系キャリア高校における教育課程改革状況の分析・考察と公表

福祉系キャリア高校の教育課程づくりをテーマとする研究会を開催した（2008年8月）。2009年度は広島・黒瀬高校において全国研修会が予定されている。こうした機会に定例研究会を実施すべく調整中である。

教科「福祉」を生かした福祉系キャリア高校教育の事例研究を通じて教育課程改革への鍵と条件を考察した。科学研究費プロジェクトの成果と学習指導要領・教免法改訂をふまえて、「福祉」専修免許を取得するための大学院科目を提案した。

報告書『福祉系キャリア高校の教育課程と実践に関する研究』（2009年3月）。これを全国研修会（広島・黒瀬高校）において頒布する予定である。市販図書の刊行を模索している。目次は以下の通りである。

まえがき；高度化・多様化する福祉系キャリア高校と「福祉」教員養成のゆくえ／第

部 事例研究 事例研究の視点；福祉系キャリア高校の教育課程改革／事例1；旭川明成高等学校／コメント：高校開設の事情に遡って／事例2；山形県立天童高等学校／コメント：保護者・教職員・地域のかかわりを活かす／事例3；石川県立金沢伏見高等学校／コメント：高大連携の視点からみた本校の特質／事例4；大阪府立松原

高等学校／コメント：市民教育としての福祉教育をめざして／事例5；佐賀北陵高等学校／コメント：資格取得を目指す専門学科と福祉マインド醸成とのせめぎ合い／事例6；岐阜県立郡上高等学校／第 部 高大連携の展開 高大連携と市民福祉教育／福祉系キャリア高校の展開と新「福祉」教師教育論／第 部 資料／謝辞；あとがきに代えて

(4)高校福祉教育および教師教育に関する比較調査研究の分析・考察と公表

デンマーク・スウェーデン・フィンランド・ドイツ・オランダ・イギリスにおける高等学校レベルの福祉教育の実態（学校体系や教育課程行政のしくみ、教員資格、ソーシャルケアワーク系の資格認定制度、卒業者の就業等）を比較整理して公表した。

報告書『福祉先進国での後期中等教育段階におけるケアワーカー養成およびその教員養成システム』（2009年3月）。目次は以下の通りである。

はじめに 目的と意義／研究の方法／後期中等教育段階におけるケアワーカー養成およびその教員養成システム；まとめと視察先記録 デンマーク／スウェーデン／ドイツ／フィンランド／オランダ／イギリス／ 考察／資料

比較研究の成果をリーダブルな市販図書として刊行すべく検討中である。

日本福祉教育・ボランティア学習学会年報 Vol.13 特集に学術論文2本を収録した（2008年11月）。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計13件）

保正友子、高校福祉科卒業生のキャリア自己概念～現在の職業と卒業年度コーホート別の傾向～、人間の福祉(立正大学社会福祉学部紀要)、査読有、23、2009年、19-29。

田村真広、高校福祉科教育に関する研究の課題と展望、日本福祉教育・ボランティア学習学会年報、査読無、13、2008年、10-24。

田中泰恵、現場実習における困難と実習からの学び～高校福祉科卒業生のライフコースアンケート調査から～、日本福祉教育・ボランティア学習学会年報、査読無、13、2008年、25-34。

平野和弘、就職時のリアリティ・ショックと現在の困難・苦勞～高校福祉科卒業生アンケート調査から～、日本福祉教育・ボランティア学習学会年報、査読無、13、2008

年、35-44。

保正友子、ライフイベント傾向についてのコーホート分析より見えてくるもの～高校福祉科卒業生のライフコースアンケート調査から～、日本福祉教育・ボランティア学習学会年報、査読無、13、2008年、45-54。

山本美香、福祉先進国における後期中等教育段階でのケアワーカー養成システム、日本福祉教育・ボランティア学習学会年報、査読無、13、2008年、67-76。

芦川裕美、高等学校福祉科において社会福祉援助技術を継続的に学習するための視点と内容～自己覚知とコミュニケーション能力の育成をめざして～、日本福祉教育・ボランティア学習学会年報、査読無、13、2008年、77-85。

田中泰恵、福祉人材養成の視点から見た高等学校「福祉科教育」の現状と方向性、東北教育学会研究紀要、査読有、10、2007年、29-40。

平野和弘、ケアワーカー養成と高校福祉科、高校生活指導、査読無、172、2007年、76-81。

山本美香、福祉先進国での後期中等教育段階におけるケアワーカー養成およびその教員養成システム、産業と教育、査読有、656、2007年、2-7。

田村真広、大学間連携による高等学校「福祉」教員養成の構想と実践、日本教師教育学会年報、査読無、16、2007年、200-204。

田村真広、高等学校「福祉」教員養成の課題と展望、日本社会事業大学実習教育センター年報、査読無、1、2007年、48-53。

田中泰恵、介護技術に関する意識構造を活用した社会福祉実習の授業構成 - T校の事例的検討 -、東北家庭科教育研究、査読有、5、2006年、55-62。

〔学会発表〕(計18件)

関矢貴秋、改正社会福祉士及び介護福祉士法の施行に伴う高等学校教科「福祉」～教員養成新カリキュラムの作成における本学の現状と課題～、日本福祉教育・ボランティア学習学会、2008年11月29日、徳島県郷土文化会館。

宮脇文恵、高校生向け福祉副読本と高校生のキャリア発達支援に関する考察、日本福祉教育・ボランティア学習学会、2008年11月29日、徳島県郷土文化会館。

田村真広・保正友子、介護・相談援助職で働き続ける人々への「高校から仕事への移行」～全国の高校福祉科卒業生へのアンケート調査に基づいて～、日本社会福祉学会、2008年10月12日、岡山県立大学。

保正友子・田村真広、高校福祉科卒業生のライフコースにおけるライフイベントの

考察～全国の高校福祉科卒業生へのアンケート調査に基づいて～、日本社会福祉学会、2008年10月12日、岡山県立大学。

山本美香、福祉先進国での後期中等教育段階におけるケアワーカー養成およびその教員養成システム、日本福祉教育・ボランティア学習学会、2007年11月24日、静岡コンベンションセンター。

田村真広、高校福祉科卒業生から見た高校生活と就労；ライフコース・アンケートの概況、日本福祉教育・ボランティア学習学会、2007年11月24日、静岡コンベンションセンター。

田中泰恵、高校福祉科卒業生の入学動機・入学前後のギャップと高校生活満足度；ライフコースアンケート調査におけるコーホート比較、日本福祉教育・ボランティア学習学会、2007年11月24日、静岡コンベンションセンター。

平野和弘、高校福祉科卒業生の卒業後の歩み；職業タイプ別分類の試みとコーホートによる比較検討を中心に、日本福祉教育・ボランティア学習学会、2007年11月24日、静岡コンベンションセンター。

保正友子、高校福祉科卒業生のライフコースにおけるライフイベントの傾向に関する考察；現在の職業分類とコーホートによる比較検討に基づいて、日本福祉教育・ボランティア学習学会、2007年11月24日、静岡コンベンションセンター。

田村真広・奥山留美子、福祉キャリア教育としての福祉科教育；多様化する高校福祉科をとらえる視点と研究課題、日本福祉教育・ボランティア学習学会、2007年11月24日、静岡コンベンションセンター。

保正友子、高校福祉科卒業生のライフコースに関する調査結果(中間報告)、日本福祉教育・ボランティア学習学会、2006年11月25日、東京国際大学。

平野優、普通科福祉コースにおける高大連携事業の軌跡；金沢伏見高校と金沢大学の「合同福祉ゼミナール」の10年間、日本福祉教育・ボランティア学習学会、2006年11月25日、東京国際大学。

矢幅清司、高校福祉教育の海外事情；北欧の事例から、日本福祉教育・ボランティア学習学会、2006年11月25日、東京国際大学。

北本佳子、高校福祉科卒業生のライフコース調査；パイロット調査から見えてきたこと(その1)、日本福祉教育・ボランティア学習学会、2005年11月27日、神戸大学。

平野和弘、高校福祉科卒業生のライフコース調査；パイロット調査から見えてきたこと(その2)、日本福祉教育・ボランテ

ィア学習学会、2005年11月27日、神戸大学。

阪野貢、高大連携の実態から福祉科教育のあり方を考える；中部学院大学・同短期大学部の事例から、日本福祉教育・ボランティア学習学会、2005年11月27日、神戸大学。

宮脇文恵、高大連携の実態から福祉科教育のあり方を考える；長崎純心大学の事例から、日本福祉教育・ボランティア学習学会、2005年11月27日、神戸大学。

芦川裕美、高等学校普通科福祉コースの教育課程経営コンサルタント；一人ひとりが主体的に選択できる力の育成、日本福祉教育・ボランティア学習学会、2005年11月26日、神戸大学。

〔図書〕(計1件)

田村真広・保正友子、ミネルヴァ書房、高校福祉科卒業生のライフコース～持続する福祉マインドとキャリア発達～、2008年、229p。

〔産業財産権〕

なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

田村 真広 (TAMURA MASAHIRO)
日本社会事業大学・社会福祉学部・准教授
研究者番号：90271725

(2) 研究分担者

菅井 直也 (SUGAI NAOYA)
広島文教女子大学・人間科学部・教授
研究者番号：60179108
関矢 貴秋 (SEKIYA TAKAAKI)
仙台大学・体育学部・准教授
研究者番号：40306048
保正 友子 (HOSHO TOMOKO)
立正大学・社会福祉学部・准教授
研究者番号：80299859
山本 美香 (YAMAMOTO MIKA)
淑徳大学・総合福祉学部・専任講師
研究者番号：80383363

(3) 連携研究者

池田 幸也 (IKEDA YUKIYA)
常盤大学・コミュニティ振興学部・教授
研究者番号：50326807
大橋 謙策 (OHASHI KENSAKU)
日本社会事業大学・社会福祉学部・教授
研究者番号：40060470
北本 佳子 (KITAMOTO KEIKO)
昭和女子大学・人間社会学部・准教授

研究者番号：30296363

阪野 貢 (SAKANO MITSUGU)

中部学院大学・人間福祉学部・教授

研究者番号：10301615

長谷川 豊 (HASEGAWA YUTAKA)

京都府立大学・福祉社会学部・准教授

研究者番号：90254317

馬場 清 (BABA KIYOSHI)

浦和大学・総合福祉学部・准教授

研究者番号：60310273

原田 正樹 (HARADA MASAKI)

日本福祉大学・社会福祉学部・准教授
研究者番号：40287793

平野 和弘 (HIRANO KAZUHIRO)

東洋大学・国際地域学部・教授

研究者番号：50348132

平野 優 (HIRANO SUGURU)

小松短期大学・地域創造学科・教授

研究者番号：50331559

保住 芳美 (HOZUMI YOSHIMI)

川崎医療福祉大学・医療福祉学部・教授

研究者番号：90341156

宮脇 文恵 (MIYAWAKI FUMIE)

長崎純心大学・人文学部・准教授

研究者番号：10320409

矢幅 清司 (YAHABA SEIJI)

国立教育政策研究所・教育課程研究センター・教育課程調査官

研究者番号：30341156

(4) 研究協力者

芦川 裕美 (ASHIKAWA HIROMI)

三島高等学校・教諭

岡 多枝子 (OKA TAEKO)

日本福祉大学・社会福祉学部・准教授

田中 泰恵 (TANAKA YASUE)

青森明の星短期大学・非常勤講師

崔 太子 (CHOI TAEJA)

大邱サイバー大学校・講師